

森林環境基金事業成果発表会

発表概要

日時 平成24年8月6日 10:30～14:30

会場 福島県農業総合センター多目的ホール

森林環境基金事業成果発表会 発表プログラム

平成24年8月6日

福島県農業総合センター多目的ホール

	時 間	発 表 タ イ ト ル	発 表 者
1	10:35 ~10:55	森林環境基金事業の実績と 今後の展望について	福島県森林計画課 副主査 江村 健
2	10:55 ~11:15	官民一体で森林保全継続を	福島市公園緑地課 主幹兼課長補佐 高橋 幸司 兼管理係長
3	11:15 ~11:35	森林環境交付金を活用した 有害鳥獣対策について	西会津町農林振興課 林政係長 平井 克美
4	11:35 ~11:55	相双地方における 森林環境基金事業の取り組みについて	相双農林事務所森林林業部 主任主査 宗方 宏幸 特定非営利活動法人 松川浦ふれあいサポート 理事 佐藤 邦房
	11:55 ~13:00	(昼休憩)	
5	13:00 ~13:20	森林環境税で人づくり・山づくり	古殿町産業振興課 主事 平松 洋昭
6	13:20 ~13:40	発見！豊かな自然と歴史 ~下郷町における 森林環境交付金事業の実施~	下郷町事業課 主任主査 星 敦史
7	13:40 ~14:00	西郷村における 森林環境学習の取組みについて	西郷村農政課 主事 角田 淳史
8	14:00 ~14:20	学校林を活用した森林環境学習の実践	いわき市立田人第二小学校 教諭 金子 尚矢

森林環境基金事業成果発表会 発表概要

森林環境基金事業の実績と今後の展望について

福島県 森林計画課 副主査 江村 健

本県の森林環境税は、「森林環境の保全」及び「森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成」を基本目標に平成18年度から導入し、森林環境の適正な保全や市町村が行う森林づくり等の推進、森林環境学習の推進や森林ボランティア活動の支援による県民参画の推進などに取り組んできた。

また、この森林環境税は5年間の時限措置として実施しており、平成18年度から平成22年度までの第1期5年間を経て、現在は平成23年度より平成27年度までの第2期の取組みを行っている。

今回の発表では、この森林環境税の概要について改めて説明すると共に、平成22年度で完了を迎えた第1期の取組み実績について報告したい。

また、平成23年度より始まった第2期対策について考え方や概要を説明すると共に、その初年度を襲う形となった東日本大震災とこれに伴う原子力発電所災害の影響を踏まえた今後の展望について、現時点での検討状況をお話したい。

森林環境税を活用した取組み

森林環境税条例に基づき2つの基本目標を掲げ、7つの施策分野により基本理念である「豊かな森林文化のくに・ふくしまの創造」の実現を目指します。

基本目標 **森林環境の保全** **森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成**

森林環境の適正な保全 これまでの水源区域に加え山地災害防止、水源かん養機能の発揮を重視する区域
 ため池や人工池など公営の機能低下が懸念される森林について、引き続き適正な管理を推進します。
 ① 森林整備事業(10/105万+) 10,000区 ② 森林整備促進事業(7.5/105万+) 5,000区

森林資源の活用による低炭素社会づくり 森林において生産された木材を有効に活用する施設を整え、長期間にもわたり炭素を固定する仕向等への木材利用の促進によって、低炭素・循環型社会づくりに貢献します。
 ③ ④ ⑤ ⑥

市町村が行う森林づくり等の推進 市町村の前置工事による仕向に身近な里山整備や木材・木質バイオマス利用を支援することによって、森林の活性化を図ります。
 ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

県民参画の推進 森林ボランティア活動支援、森林づくり推進者の育成、企業・団体等の森林づくりを支援するほか、県立学校や県有施設で森林環境学習を実施します。
 ⑪ ⑫

ふくしまの森林文化の継承 地域に伝わる森林文化や木を利殖する知恵を、県民の財産として次世代に引き継いでいくための取組みを進めます。
 ⑬ ⑭

森林環境の調査 森林の整備による公益的価値や木材利用による炭素固定の促進等について調査研究を進めます。
 ⑮

森林環境基金の運営 森林環境税の増収と基金事業の適正な運営を行います。
 「森林の未来を考える懇談会」の運営
 森林環境税の広報

基本理念の実現 「豊かな森林文化のくに・ふくしまの創造」

森林環境基金事業成果発表会

1. 発表の表題 官民一体で森林保全継続を
2. 発表者 福島市 都市政策部 公園緑地課 主幹兼課長補佐兼管理係長
高橋幸司（たかはしこうじ）
3. 事業概要
 - ①里山再生の方針
 - ・住民に愛される魅力ある里山再生
 - ②里山再生への取り組み
 - ・健全な森林保全のため、除間伐や下草刈の実施
 - ・除間伐材を再利用したウッドチップによる散策路の整備
 - ・間伐材の利用による案内標識の設置
 - ・住民参加型による懇談会の設置
 - ③里山再生の経過（市単独事業から森林環境交付金を活用した整備）
4. 事例紹介
 - 1) 信夫山公園景観整備事業（信夫山公園景観整備懇談会）
 - ◎現状と森林整備の必要性
 - 展望台からも見通し確保（5箇所）
 - 展望台の移設及び復旧
 - 展望台の整備（眺望説明板）
 - 展望台や遊具広場などの案内板設置
 - 遊歩道の整備
 - ※「信夫山公園景観整備事業」で取り組んだ里山再生が本市の森林整備の骨格である。
 - 2) 土合館公園森林整備事業（土合館公園協同整備事業実行委員会）
 - ◎現状と森林整備の必要性
 - 眺望再生（市民からの要望）
 - 間伐材を使用した散策路整備
 - 間伐材を使用した樹名板設置
 - 除間伐、下草刈
 - 3) 愛宕山公園森林整備事業
 - ◎現状と森林整備の必要性
 - 眺望再生（市民からの要望）
 - 除間伐、下草刈
 - 4) 弁天山公園森林整備事業（弁天山公園森林整備懇談会）
 - ◎現状と森林整備の必要性
 - 眺望再生（市民からの要望）
 - 除間伐、下草刈
 - 竹林再生
 - ◎除染の取り組み
5. まとめ
6. 今後の課題

森林環境交付金を活用した有害鳥獣対策について

西会津町農林振興課林政係長 平井克美

本町では、昭和50年代の後半より新潟県から移動してきたニホンザルによる農作物被害が町内各地に拡大し、平成19年度の農作物被害は604万円になっている。

また、ツキノワグマによる被害も拡大傾向となっている。平成18年度や平成22年度に大量出没し、特に平成22年度には町内にまで出没しテレビに報道されるなど全国的に有名となった。

さらに、平成23年度にはイノシシによる農作物被害まで発生している。

今までニホンザルの被害防止対策については、個体数調整による捕獲ばかりでなく、電気牧柵等の防除機器の導入、モンキードックの養成、未利用果樹木の伐採整理など様々な対策を実施してきたが、今回の発表会では、森林環境交付金を活用して実施してきた森林整備事業の事例を紹介する。また、あわせて最近被害が拡大方向となっているクマハギ被害対策を昨年度初めて実施したのであわせて報告する。



森林整備の実施後の状況



クマハギ被害対策実施後の状況

相双地方における森林環境基金事業の取り組みについて

相双農林事務所森林林業部 主任主査 宗方宏幸
特定非営利活動法人 松川浦ふれあいサポート
理 事 佐藤邦房

相双管内では、各市町村が独自性を発揮しながら森林環境基金事業を展開してきており、基本枠では、各小中学校が立地する森林環境に応じた特徴ある森林環境学習を積極的に展開し、平成22年度には約7割の学校で取り組みが行われ、重点枠では、これまで管内全ての市町村で実施され、地域の実情に応じた事業が行われてきた。

しかし、昨年3月の東日本大震災、原発事故に伴い、平成23年度以降、市町村事業を始めとした県民参加の森林づくりの活動等は自粛ムードが強い状況にある。

このような中で震災からの復興に向け、心を癒してくれる森林（もり）や木とのふれあいを求める要望があり、平成23年度は、仮設住宅や避難先を中心とした重点枠事業でベンチなどの木製品の設置を行ってきた。また、震災後、地域の絆を深めるため、里山の整備に取り組むボランティア団体も徐々に活動を再開しており、その中で、津波の被害に遭いながらも、力強く活動を再開したNPO法人松川浦ふれあいサポートが、森林ボランティア活動支援事業を活用しながら、松川浦の大森山で里山林を整備した活動について紹介する。



仮設住宅でのベンチ設置



松川浦ふれあいサポートのみなさん

森林環境税で人づくり・山づくり

古殿町産業振興課林政係 主事 平松洋昭

古殿町は県内有数の人工林と町内8社の製材工場があり、かつては林業の町として栄えていたが、近年、衰退傾向にある林業の活性化を後押しすべく森林環境交付金事業に取り組んだ。

基本枠では、平成19年度に町民らとともに古殿町林業活性化ビジョンを策定し、詳細な森林調査やGPSの導入、田邊由喜男氏による作業道開設研修会を展開するとともに、平成23年度には岩手大学岡田教授らとともに新たな古殿町森林整備計画を策定し、町の実行方針を示した。森林環境学習では、地元専門家らによる特色ある林業体験、インターネットによる世界的な森林問題調査など森林に意識を向かせる様々な事業を展開した。

重点枠では古殿町を木材生産の町として強くイメージさせるため、道標、案内板、児童用机椅子、清水飲み場など公共施設には可能な限り県産材を活用した。

今後は引き続き本交付金を柔軟に活用するとともに、林家等の感性に訴えるような新たな事業を展開していきたい。



発見！豊かな自然と歴史

～下郷町における森林環境交付金事業の実施～

下郷町事業課産業振興班 主任主査 星 敦史

下郷町は南会津郡の東部に位置し、古くは下野街道や松川街道（会津中街道）などが通る関東と会津を結ぶ交通の要所であり、大内宿に代表される宿場町が点在しており現在も観光客が多数訪れる自然と歴史の町である。

当町においては、森林環境交付金基本枠を活用して、町内の小中学校における森林環境学習の推進や町づくり団体による森林観察会などを実施してきた。

その中でも、森林環境学習は平成18年度より檜原小学校において実施しており、各学年に応じた自然観察会やきのこの学習、木工教室などのほか、間伐材の利用について理解を深めるため、雪の多い地域性を活かし、間伐材を利用したそり作りを行っている。

平成23年度より江川小学校、更に平成24年度からは下郷中学校でも本事業を活用し実施している。

本日は、それらの取り組みについて報告する。



西郷村における森林環境学習の取組みについて

西郷村 農政課
主事 角田 淳史

西郷村は中通りの南部に位置する村である。村の西部には阿武隈川の源流や日光国立公園に指定されている白河甲子高原があり、豊かな自然環境に恵まれている。

今回は西郷村における森林環境学習の取組みについて、村内 2 つの小学校を例に紹介する。

阿武隈川の源流に最も近い小学校である川谷小学校では、阿武隈川下流の宮城県荒浜小学校と交流をしている。毎年 6 月になると荒浜小学校の児童が西郷村を訪れ、川谷小学校の児童と阿武隈川源流の沢登りを実施する（写真 1）。そして 9 月になると川谷小学校の児童が荒浜小学校を訪れ、同じ川でも、上流と下流で生態にどのような違いがあるのか等体験している。



写真 1. 阿武隈川沢登りの様子

次に、村の北部に位置する羽太小学校では、学校林等から木を切り出し、炭作りに取り組んでいる。地元の方を講師に招き、学校林内の植生、炭作りに適した木、森林と人の生活との関わり等の授業を行う。児童たちは学校林等から炭に適した木を探し出し、地元の方の協力の元、切り出し、窯入れ、窯出しと炭作りの一連の流れを体験している（写真 2）。



写真 2. 窯出しの様子

森林環境基金事業成果発表会 「学校林を活用した森林環境学習の実践」

いわき市立田人第二小学校 教諭 金子 尚矢

2012. 8. 6 福島県農業総合センター多目的ホール

1 学校の概要

本校は、森や川など豊かな自然に囲まれた、いわき市南西部の山間に位置する。現在、全校児童 6 名と児童数の減少が続いているが、保護者や地域の方々、近隣校との連携を図りながら、学習活動の充実に努めているところである。

2 森林環境学習の取り組み

【ねらい】 「学校林や森林にかかわる学習活動を通して、森林のよさやはたらし、また、その重要性を理解し、森林および自然環境の保全について考え、実践できる資質や能力を育てる」

森林環境学習については、学校より徒歩 5 分ほどの場所にある「学校林」での活動を中心に取り組んでいる。ここには天然林と人工林が混在し、多様な動植物が見られるほか、森の中を流れる川を使っ



ての活動も可能である。
児童はここでの様々な自然体験を通して生まれた疑問をもとに「森と川と海のつながり(H21)」「森の種類とその仕組み(H22)」などといった、森林環境にかかわる学習テーマを設定し、それについて調べる学習を行った。学習のまとめでは、市内の小学生を学校林に招いて案内するとともに、学習内容を発表した。



なお、学習活動の推進にあたっては、専門的な見地からの助言や、安全面におけるサポートなど、「NPO 法人いわきの森に親しむ会」の方々に、様々な面でご協力いただいている。



また、テーマ学習の他、様々なネイチャーゲームや、ツリーハウスやジャングルジムなどの遊具作りや丸太切り体験など、森林の素晴らしさに気付くための楽しい活動も行ってきている。

今後も児童が森林や自然環境に対する理解を深め、大切にしようとする意識を高められるような学習活動を工夫し、行っていきたい。

